

令和 2 年度決算に係る

定期監査資料

令和 3 年 7 月

教育委員会高等学校課

## 目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
	(3) 決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	2
3	職員の定員、現員調べ	2
4	役付職員の調べ	2
5	主な事業に関する調べ	3
6	決算資料(総括表)	5
7	事業別実施状況調べ	5
8	予備費の充用調べ	5
9	繰越関係調べ	5
	(1) 継続費通次繰越調べ	
	(2) 繰越明許費調べ	
	(3) 事故繰越調べ	
10	収入証紙取扱調べ	5
11	現金の取扱状況	5
	(1) 現金取扱状況	
	(2) つり銭の状況	
12	財産に関する調べ	5
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
	(3) 基金	
	(4) 債権	
13	財産の貸付及び使用許可調べ	7
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品(1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄附受納時の評価額が100万円以上のもの)	
14	借受不動産明細調べ	7
15	職員駐車場の管理状況調べ	7
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
16	寄附物件の受納状況調べ	7
17	備品の処分状況調べ	7
18	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	7
	(1) 亡失、損傷の報告状況	
	(2) 物品確認の実施状況	
19	貸付金等状況調べ	7
	(1) 総括表	
	(2) 償還状況	
○	意見、要望等	7

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項

指摘事項	措置状況等
<p>今後の高等教育の在り方を検討する会に係る経費について、支出負担行為の事務手続が遅延していた。</p>	<p>1 原因 他の所属が所管する事業(会議)であったため、他所属が事務手続を行うものと担当者が思い込み、手続を執っていなかったこと、並びに上司による確認が十分に行われなかったため。</p> <p>2 再発防止策 他の所属の所管事業においては、所属間でしっかりと情報共有を行い、手続漏れが起きないように徹底する。</p>
<p>鳥取県立高校の魅力磨き上げ推進業務委託契約について、次のような状況が見受けられた。 ○支出負担行為の事務手続が遅延していた。 ○契約保証金の受領前に契約を締結していた。</p>	<p>&lt;支出負担行為の遅延&gt;</p> <p>1 原因 1者随意契約の委託業務であったが、仕様書の作成において、担当者と上司が、契約の相手方との調整作業に係る進捗管理ができていなかったため。</p> <p>2 再発防止策 業務着手前の計画で速やかに契約事務に着手することを担当者に指導した。 また、R3.1.29 開催予定であった会計専門研修会が中止となったため、会計処理を担当する職員全員が研修資料により正しい会計処理について確認を行った。</p> <p>&lt;契約保証金受領前の契約締結&gt;</p> <p>1 原因 契約の遅延に気をとられ、担当者が契約保証金の納付を確認しないまま、契約を締結したこと並びに上司による確認が十分ではなかったため。</p> <p>2 再発防止策 契約締結の起案については、課の庶務を行う学事担当も確認することとする。 また、R3.1.29 開催予定であった会計専門研修会が中止となったため、会計処理を担当する職員全員が研修資料により正しい会計処理について確認を行った。</p>

(2) 監査意見

該当なし

(3) 決算審査意見

該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況

該当なし

3 職員の定員、現員調べ

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備 考
	3.4.1 現在	2.4.1 現在	3.4.1 現在	2.4.1 現在	3.4.1 現在	2.4.1 現在	3.4.1 現在	2.4.1 現在	
定 員	17	17					17	17	
現 員	( ) 17	(1) 17	( )	( )	( )	( )	0 17	1 17	R2:文部科学省派遣(1名)
過不足(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時的 任用職員	0	0					0	0	
会計年度 任用職員	2	2					2	2	・一般事務(1名) ・キャリアプランニングスーパーバイザー(1名)

4 役付職員の調べ

(令和3年7月1日現在)

職 名	氏 名	在職期間		備 考
		年	月	
高等学校課長	酒井 信彦	2	3	
高校教育企画室長	福本 哲也	3	3	
課長補佐	福田 高之	2	3	
課長補佐	尾崎 浩三	2	3	3年3ヶ月

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
とっとり高校魅力化推進事業	24,841	4,663		560	19,618
将来ビジョン	2 つなげる 力をつなげ、結集して、持続可能で魅力あふれる地域を創る				
令和新時代創生戦略	2. 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む ② 人財とっとり ② 地域を支える人財の育成				
政策項目	学力・体力を真に育む学校改革と子どもの未来を拓く特色ある高校づくり				
(概要)					
ア 目的及び事業の実施状況					
(ア) 目的					
県内の中学校卒業生数が減少していく中、中学生やその保護者にとって、この高校に進学したいと思う動機づけとなるような特徴的な学科や教育内容を打ち出し、県外の中学生も入学を希望する学校となるよう改革を進める。					
(イ) 事業の実施状況					
(1) 県立高校魅力化推進事業					
前年度の魅力磨き上げ推進事業で検討を行った岩美高校の食をテーマにした研究と商品化とそれに伴う調理器具等の整備や、日野高校のICTを活用した地域課題の解決に係る取組として、具体的にはeスポーツの看護への活用などを実現するためのeスポーツ用の機器類(一部クラウドファンディングを実施)を整備した。					
(2) 県立高校の魅力磨き上げ推進事業					
入学人数が減少している青谷高校を対象に、高校の魅力化を手掛けて実績を上げている専門家の協力を得て、地元自治体、地域住民を交えて同校の魅力の打ち出しについて検討を行い、地域の素材である「青谷上寺地遺跡」を活かし、新カリキュラム「弥生文化探究」を創設することとし、「青谷学」等の既存のカリキュラムと絡めて考古学を軸とした新たな魅力の打ち出しを行うこととした。					
(3) マスコミを活用した学校の魅力発信					
若年層に人気のFMラジオ番組を活用し、パーソナリティと高校生(青谷高校、倉吉農業高校、日野高校)がオンラインで直接やりとりする映像を制作し、番組ホームページで公開して同番組内で告知を行ったほか、高校生自ら20秒程度のラジオCMを制作し、放送するなどして鳥取県の高校の魅力を全国に発信した。					
(4) 県外生徒の募集活動					
鳥根県の一般財団法人が主催する県外への進学を検討している中学生や保護者と県外からの生徒募集に取り組む公立高校のマッチングイベント(令和2年度はオンライン開催)に本県から3校(青谷高校、倉吉農業高校、日野高校)が参加し、生徒の勧誘活動を行った。					
イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点					
県外生徒の募集活動の時期とマスコミを活用した学校の魅力発信の時期が重なるようにしたこともあり、大きな反響と手ごたえ(問い合わせや視察)があった。					
ウ 成果及び効果					
県外の中学生や保護者から県立高校への問合せや視察訪問の依頼が学校に数多く寄せられ、また実際に県外からの入学者数が前年度より大幅に増加するなどの実績が上がった。					
エ 課題					
県外生徒の受入れのためには、学生寮などの住環境が整っていることが必要となるが、現時点で学生寮を有する県立高校は3校しかないため、さらなる県外生徒の受入れを進めていくためには、学生寮整備及び民間施設の利活用の検討、下宿受入先の掘り起こし等が必要となっている。					

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
ICT活用推進事業	4,206				4,206
将来ビジョン	6 育む 次代に向けて、躍動する「ひと」を育む				
令和新時代創生戦略	2. 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む (2) 人財とっとり ② 地域を支える人財の育成				
政策項目	国際化・AI化等に対応した英語・プログラミング教育と大学入試改革対策				
(概要)					
ア 目的及び事業の実施状況					
(ア) 目的					
ICT機器の活用方法の研究を進め、授業の質的向上、個別学習の充実、思考力を深めるとともに、ICT指導力の向上を図り、ICT環境を生かした学びを構築していく。					
(イ) 事業の実施状況					
(1) 倉吉東ICT支援員派遣事業					
高校におけるICT活用教育を推進し、ICT機器を活用した先進的な環境整備を図るため倉吉東高校をモデル校とし、授業中に教員のICT機器の操作支援を行ったり、教材作成の提案、クラウド型学習サービスのGoogle Workspace for Education(旧:Google G suite for Education)の試験導入に伴う活用方法の提案や支援を行い、得られた成果を県内高校へ普及させた。(新型コロナウイルスの影響による臨時休業等の際には、同校で試験活用したGoogle Workspace for Educationを他校でも活用し、学習機会の継続を図った。)					
(2) モデル校における教職員用タブレットの導入事業					
倉吉東高校において、試行的にBYOD(生徒所有のタブレットやスマートフォンなどの通信機器を授業に活用すること)で生徒にクラウド型学習サービスを利用させるため、それに対応できるよう教員用のタブレット端末を整備した。					
(3) クラウド学習サービスの導入に係る教員向け利活用研修事業					
クラウド学習サービスのGoogle Workspace for Educationを、各教員が授業等の各場面で有効に活用することができるよう、外部講師による利活用法の詳細な研修を行った。					
イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点					
新型コロナウイルスの影響の中でも学びを止めないことを意識して、モデル校での活用を参考にしながら、臨時休業や分散登校時においても生徒の学習継続を担保するためクラウド学習サービスの活用に取り組んだ。					
ウ 成果及び効果					
生徒が学校に来られないという緊急事態の中、各学校で教員が知恵を絞って紙ベースに加え、クラウド学習サービスを活用したことで、教員が教育におけるICT機器の活用の必要性を認識するとともに、実際にそれらを活用する中で教員のICT活用能力が向上した。					
エ 課題					
これまでのハード面の整備に加え、ソフト面(クラウド学習サービス等)の環境が整ってきたが、ICT活用能力が十分でなかったり、利用に積極的ではない教員もおり、ICT支援員のさらなる活用や校内での推進体制の構築、研修等の機会を設けていくことが必要。					

6 決算資料

一般会計(歳入)

区分	科目	算 額			計	調 定 額 A	収入済額 B	不納欠損額 C	収入未済額 A-B-C	備 考
		当初予算額	補正予算額	継続費及び繰越事業費 繰越財源充当額						
歳	教育使用料	1,318,165,000	△ 12,379,000	0	1,305,786,000		0	0		
	教育手数料	34,218,000	△ 3,126,000	0	31,092,000		0	0		
	教育費国庫負担金	1,136,030,000	0	0	1,136,030,000		0	0		
	教育費国庫補助金	21,477,000	48,215,000	0	69,692,000		0	0		
	教育費寄付金	873,000	0	0	873,000		0	0		
入	雑入	692,000	0	0	692,000		0	0		
	合 計	2,511,455,000	32,710,000	0	2,544,165,000	0	0	0		

(単位:円)

一般会計(歳出)

区分	科目	算 額			計	支出済額 (決算額) B	支出済額の内訳		翌 年 繰 越 額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	備 考
		当初予算額	補正予算額	継続費及び繰越事業費 繰越			本 庁	出納機関			
	教育連絡調整費	1,229,706,000	△ 10,357,000	0	1,220,891,200	0		0	1,220,891,200		
	教育振興費	90,526,000	20,372,000	△ 1,542,200	109,355,800	0		0	109,355,800		
	教育財産管理費	641,000	0	0	641,000	0	0	0	641,000		
	合 計	1,320,873,000	10,015,000	0	1,330,888,000	0	0	0	1,330,888,000		

(単位:円)

特別会計  
該当なし

7 事業別実施状況調べ

(単位：円)

事業名	当初予算額 A	補正予算額 B	支出済額 C	翌年度繰越額 D	差引残額 E=A+B-C-D	執行率 F=C/A	事業の計画と実績・成果・不用額・執行率																
(教育連絡調整費) 小学校英語パワーアップ事業～拠点小学校を中心とする英語教育強化事業～	9,387,000	△ 330,000 (△259,448)	8,783,325	0	273,675	94%	平成30年度完結事業ではあるが、関係地教委及び学校からの強い要望を受け、7月末までの4か月間、同事業指定5校に外国語指導助手(ALT)を継続して配置した。令和2年度からの新学習指導要領全面実施の円滑な導入に資するため、学習教材や指導計画の充実やALTとのモデル的なTTの実践等を推進し、地域への普及還元を図った。新学習指導要領の目標や内容の理解が深まっただけでなく、指定校では「英語の授業が好き」と答える児童が多いことが証左するように、児童が英語に触れる機会が増え、英語学習への意欲が高まった。  (とっとりイングリッシュキャンプ、高等学校教育企画費へ流用)																
とっとりイングリッシュキャンプ	588,000	0 (254,168)	755,104	0	△ 167,104	128%	中高生の希望者を対象に県内の外国語指導助手(ALT)を活用し、2泊3日の英語キャンプを実施し、英語を学ぶ楽しさやコミュニケーション能力の向上につなげた。 ・中学生47名参加 ・ネイティブスピーカーとのコミュニケーションだけでなく、理想の国をグループ別に企画・想像し、英語によるプレゼン等も実施  (入学選抜諸費、英語パワーアップ事業から流用)																
教職員派遣研修費	12,105,000	0 (265,685)	12,369,942	0	△ 264,942	102%	教職員の資質や指導力の向上を図るため、計画的な派遣により研鑽を積んだ。 (高等学校教育企画費、高校改革推進事業から流用)																
							中央研修講座への派遣 各種研修会・講習会への派遣 指導主事及び現職教員を中央研修講座等に派遣することで、指導力の向上を図るとともに、各地区において中核となる人材の育成を図った。																
							<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>テーマ及び派遣先</th> <th>人数</th> <th>期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">内地留学・新教育大学大学院等への派遣</td> <td>内地留学 特別支援教育の充実 鳥取大学地域学部(1人)</td> <td>1人</td> <td>1年</td> </tr> <tr> <td>新教育大学大学院 (2年目1人、1年目1人)</td> <td rowspan="2">4人</td> <td rowspan="2">2年</td> </tr> <tr> <td>鳥根大学大学院 (2年目1人、1年目1人)</td> </tr> <tr> <td>大学の知と連携した授業改革による学びの質の向上</td> <td>東京大学</td> <td>3人</td> <td>9日間</td> </tr> </tbody> </table>	区分	テーマ及び派遣先	人数	期間	内地留学・新教育大学大学院等への派遣	内地留学 特別支援教育の充実 鳥取大学地域学部(1人)	1人	1年	新教育大学大学院 (2年目1人、1年目1人)	4人	2年	鳥根大学大学院 (2年目1人、1年目1人)	大学の知と連携した授業改革による学びの質の向上	東京大学	3人	9日間
区分	テーマ及び派遣先	人数	期間																				
内地留学・新教育大学大学院等への派遣	内地留学 特別支援教育の充実 鳥取大学地域学部(1人)	1人	1年																				
	新教育大学大学院 (2年目1人、1年目1人)	4人	2年																				
	鳥根大学大学院 (2年目1人、1年目1人)																						
大学の知と連携した授業改革による学びの質の向上	東京大学	3人	9日間																				
							教員要件に係る研修 介護福祉士養成施設である県立高等学校に勤務する教員が、教員要件を満たす資格を取得するための研修を受講した。(1人)																
							消費者教育推進に係る研修 成年年齢引き下げに伴い、高校生の消費者被害の防止・救済に係る教育の充実のため、講師を招聘して授業実践の取組を学び、各学校の取組についての意見交換を行った。																
県立高校裁量予算学校独自事業							学校長が独自性を発揮した学校経営ができるよう、学校運営費、教職員旅費、学校独自事業の総額を一括して配分し、学校長裁量による予算執行を行った。 各学校の課題解決のための臨機な対応ができ、実施に当たった費用対効果の検証、説明責任を果たすなど、学校の自主・自立に繋がっている。																
予算額及び決算額は教育環境課で計上																							



事業名	当初予算額 A	補正予算額 B	支出済額 C	翌年度 繰越額 D	差引残額 E=A+B-C-D	執行率 F=C/A	事業の計画と実績・成果・不 用額・執行率																				
公立高等学校 就学支援事業	1,161,577,000	△ 860,000 (380,660)	1,131,929,789	0	28,787,211	97%	保護者等の道府県民税所得割額及び 市町村民税所得割額の合算額が50 万7,000円未満の世帯につい て、就学支援金及び学び直し支援金 の支給を行った。 【支給状況】 ・就学支援金 在籍者の約86%に支給 支給総額:1,125,427,852円 年度内の受給資格者数 (実人数):10,123人  ・学び直し支援金 支給総額:363,416円 年度内の受給資格者数 (実人数):35人  【不用額の理由】 予算要求にあたり、前年度5月現 在の認定者割合を基に必要額を積算 しているが、実際に入学し、認定と なった生徒数が見込みよりも少な かったため。  (高校改革推進事業から流用)																				
高等学校改革 推進事業	3,590,000	0 (△730,235)	2,855,165	0	734,835	80%	本県中学校卒業生数の減少に伴う学 校の在り方を検討し、学級減とそれ に伴う教育課程等の特色化を図った ほか、県外からの生徒の獲得のため 優秀アスリート支援や下宿登録制度 を活用して県外生徒の受入を進め た。また、学校と地域が連携・協働 しながら、新しい時代に求められて いる生徒の資質・能力を育むため保 護者や地域住民等が教育課程など学 校運営に直接意見できる学校運営協 議会を県立高校1校に設置した。 (教職員派遣研修費、公立学校就学 支援事業へ流用)																				
(主)とっと り高校魅力化 推進事業	0	15,695,000 (87,526)	15,099,676	0	595,324	96%	主な事業に関する調べのとおり																				
高等学校教育 企画費	24,180,000	0 (2,148,646)	26,299,114	0	#####	109%	県立高等学校に対して指導・助言を 行うとともに、関係団体への助成を 行った。 NPO法人、商工会議所青年部の協力 を仰ぎ、実際に事業者と直接話を し、企業が抱える課題の解決に生徒 が取り組むことで、生徒の思考力の 養成を図った。 (未来を拓く学力向上事業、外国語 指導力向上事業、高校改革推進事 業、教職員派遣研修費から流用)																				
入学選抜諸費	7,325,000	0 (△644,650)	6,669,422	0	655,578	91%	令和2年度県立高等学校入学者等の 選抜を実施した。  願書受付(一般) R2.2.19~2.21 入学者選抜検査(一般) R2.3.5~ 3.6 合格発表 R2.3.16  (とっとり高校魅力化事業、高等学 校教育企画費、とっとりイングリッ シュキャンプに流用)																				
							<table border="1"> <thead> <tr> <th>課程</th> <th>定員</th> <th>志願者</th> <th>受検者</th> <th>合格者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全日制</td> <td>3,922</td> <td>3,813</td> <td>3,720</td> <td>3,476</td> </tr> <tr> <td>定時制</td> <td>220</td> <td>146</td> <td>141</td> <td>124</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,142</td> <td>3,959</td> <td>3,861</td> <td>3,600</td> </tr> </tbody> </table>	課程	定員	志願者	受検者	合格者	全日制	3,922	3,813	3,720	3,476	定時制	220	146	141	124	計	4,142	3,959	3,861	3,600
課程	定員	志願者	受検者	合格者																							
全日制	3,922	3,813	3,720	3,476																							
定時制	220	146	141	124																							
計	4,142	3,959	3,861	3,600																							
目 計	1,218,752,000	14,505,000	1,204,761,537	0	28,495,463																						

事業名	当初予算額 A	補正予算額 B	支出済額 C	翌年度 繰越額 D	差引残額 E=A+B-C-D	執行率 F=C/A	事業の計画と実績・成果・不 用額・執行率
(教育振興費) とっとり農林 水産人材育成 システム推進 事業(県版S PH事業)	934,000	0 (8,800)	589,701	0	344,299	63%	地域で活躍できる人材育成に向け て、倉吉農業高校(農業)を県版S PH事業の対象校として指定し、地 域の産業界や教育機関等と連携した 取組を行った。その取組みの中 で、県農林水産部との連携事業 「スーパー農林水産業士事業」から 4名(農業3、林業1)のスーパー 農林水産業士が認定された。 (外国語指導力向上事業から流用)
アクティブ・ ラーニング推 進事業～21 世紀型能力を 育む次世代授 業の創造～	4,518,000	△ 601,000 (2,060)	2,839,670	0	1,077,330	63%	【不用額の理由】 当初予定していた県外大学との連 携事業について、日程の調整がつか ず中止となったため ○21世紀型学力検討委員会を開催 し、高大接続・個別最適化・探究活 動・英語4技能等について新しい学 びの創造について協議し、これまで の成果をまとめた報告書を作成。 ○21世紀型能力を育むための講師 派遣は、全16校で実施。 ○学びの文化祭は、倉吉東高校と米 子高校の2校で実施。 ○「思考力・判断力・表現力」の評 価に係る検証事業は、能力を多面的 に測るテストを倉吉東高校で実施 し、外部機関でその成果を検証。 (グローバルリーダーズキャンパス から流用)
未来を拓く学 力向上事業	5,836,000	0 (△730,901)	4,765,796	0	1,070,204	82%	学校の枠を超えた連携を深め、教員 同士が協働して教科指導力を向上さ せ授業改善を図るための取組や、切 磋琢磨しながら進路実現に向けて果 敢にチャレンジする生徒を育成する ための取組を実施。 ・エキスパート教員育成参加教員数 6人 →内4人をエキスパート教員に認 定 ・学校連携チャレンジサポート事業 (5校7事業) ・理数課題研究等発表会 参加生徒数58人 ・「科学の甲子園」鳥取県大会 参加生徒数79人  (土曜授業活用事業、キャリア教育 充実事業から流用、グローバルリー ダーズキャンパス、高等学校教育企 画費へ流用)
県立高校土曜 授業等実施事 業	3,297,000	0 (△381,725)	2,530,421	0	766,579	77%	土曜日において、生徒にこれまで以 上に豊かな教育環境を提供し、その 成長を支えるため、土曜授業の実施 に取り組むとともに、土曜日を活用 して、学校と地域が連携した多様な 学習や体験活動等の機会の充実に取 り組んだ。 ・モデル校10校12事業実施。 ・学期に数回程度、希望する生徒を 対象に学校と地域が連携した多様な 学習や体験活動等の機会を設定 (未来を拓く学力向上事業に流用)
高大接続改革 対応事業	0	13,165,000	11,789,290	0	1,375,710	—	高大接続改革が進められる中、高等 学校教育において求められている 「思考力・判断力・表現力(記述 力)」の強化を図るため、各研究、 各学問分野等における著名な研究 者、実践者等を招いて意見交流を行 う等の質の高い探究活動を実施し た。また、大学入試改革で導入され る外部試験を予め高校2年生に受験 させ、試験への順応と試験結果の詳 細なデータ分析による課題抽出・効 果的な指導法の開発を図る。

事業名	当初予算額 A	補正予算額 B	支出済額 C	翌年度 繰越額 D	差引残額 E=A+B-C-D	執行率 F=C/A	事業の計画と実績・成果・不用額・執行率
グローバルリーダーズキャンパス	10,835,000	0 (330,704)	10,247,022	0	587,978	95%	<p>(1) 平成30年度グローバルリーダーズキャンパス最優秀受講者特別表彰 取組姿勢および成長・成果が顕著な生徒2名を、プログラム最優秀受講者として認定し、スタンフォード大学本学キャンパスにて特別表彰式を開催。大学関係者、在サンフランシスコ日本総領事館関係者が参加。2名の生徒は、同プログラムにおける学びや今後の抱負について英語でプレゼンを行い、参加者との質疑応答に臨んだ。実践的英語力の高さ、物おじせず自分の考えを論理的に説明する力等、同プログラムも通して2名が育んだ力が高く評価された。</p> <p>(2) グローバルリーダーズキャンパスでの学びや経験を生かした進路実現 平成30年度受講生が、グローバルリーダーズキャンパスをとおして自身の進路希望を固め、志望する大学の受験において、積極的に推薦入試やAO入試にチャレンジ。本プログラムでの学びや取組等が高く評価された。</p> <p>(グローバルチャレンジ、未来を拓く学力向上事業、倉農演習林事業、特別支援教育支援事業から流用、アクティブラーニング活用事業、グローバルチャレンジ事業へ流用)</p>
鳥取発！高校生グローバルチャレンジ事業	6,741,000	△ 2,083,000 (△165,993)	3,713,065	0	944,935	55%	<p>海外留学（長期・短期）への支援、英語弁論大会の開催及び高校生14名程度を約1週間東・東南アジアへ派遣する事業等を実施し、世界に目を向けた将来展望を持った生徒を育成。</p> <p>参加人数 ・海外留学への支援   長期2名、短期8名   計10名 ・英語弁論大会23名 ・生徒派遣事業2名 (新型コロナウイルス感染症感染予防の観点から中止となった事業が複数あったため)</p> <p>(グローバルリーダーズキャンパス、外国語指導力向上事業に流用)</p>
外国語指導力強化関係事業	127,076,000	△ 1,626,000 (△150,262)	119,258,376	0	6,191,624	94%	<p>○鳥取県英語教育推進会議 県の英語教育の施策について成果や課題の検証（年3回開催） ○英語教育研修協力校支援研修 研修協力校の小・中・高等学校において授業研究会を開催し、域内の学校に公開 ○英語教員等の指導力向上 英語教育推進リーダー研修（中学校年3回）</p> <p>ALTの指導力向上研修 ○英語教育推進フォーラム 県内の学校の先進的な取組の発表と有識者による講演 ○語学指導を行う外国青年（ALT）を県立学校に配置した。 ・英語 24名 ・韓国語 2名</p> <p>英語担当教員の資質の向上を図るため英語圏の大学への2ヶ月派遣 (とっとり農林水産システム事業、グローバルリーダー育成事業、高等学校教育企画費に流用、グローバルリーダーズキャンパス、グローバルチャレンジ事業から流用)</p>

事業名	当初予算額 A	補正予算額 B	支出済額 C	翌年度 繰越額 D	差引残額 E=A+B-C-D	執行率 F=C/A	事業の計画と実績・成果・不用額・執行率
小・中学校における英語4技能ステップアップ事業	0	2,901,000 (△11,000)	2,449,850	0	451,150	—	○小学校英語専科加配教員指導力向上事業 外部有識者を招聘し、ワークショップ型の強化指導力向上研修会を開催。 ○島根大学との共同研究（小・中学校） 大学教員による理論研修を踏まえ、新学習指導要領に対応した実践的な授業改善（小学校）や定期テスト問題の改善（中学校）に取り組んだ。 ○生徒の英語力向上事業（中・高等学校） 中学校では、県内全中学2年生を対象に英語民間試験（2技能型）を、高等学校では、大学進学を希望する公立高校2年生を対象に英語民間試験（4技能型）を、それぞれ実施。 外部試験受験の機会を提供するとともに生徒の英語学習のさらなる動機付け及び教員のR-PDCAサイクルによる実践的授業改善を支援。  (未来をつなぐ高校生活支援事業に流用)
グローバル・リーダー育成事業	9,738,000	△5,028,000 (11,805)	4,201,443	0	508,557	43%	将来様々な分野において国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成するため、国事業（※スーパーグローバルハイスクール）を活用し、指定高等学校が国内外の大学や企業、国際機関等と連携し、質の高いカリキュラムを開発・実践。  ※スーパーグローバルハイスクール 期間：5年間（H27～R1） 指定校：鳥取西高等学校 内容： ・課題研究 地域の課題をグローバルな視点で解決する探究型学習を実施 ・外国人教員の授業 グローバル課題に関する英語の授業を実施 7クラス×2時間  ・海外大学派遣研修 生徒8名をアデレード大学（豪）に派遣し、「地域の活性化」などのテーマについて、インタビューなどのフィールドワークとプレゼンテーションを実施  【執行率が50%以下となった理由】 国の認証減により、不用額が生じた。 (外国語指導力向上事業から流用)
(主) キャリア教育充実事業	13,007,000	△628,000 (△182,585)	10,999,682	0	1,379,318	85%	主な事業に関する調べのとおり
外部人材活用事業	6,186,000	△1,061,000	4,713,385	0	411,615	76%	・県立高校・大学教員交流事業 高等学校の生徒が大学教員の最先端の講義を受けることにより、学ぶことへの意欲の高揚を図るとともに、将来の進路目標に向かって学習する態度の育成に努めた。  ・社会人講師活用事業 生徒の興味・関心に応じた多様な教育を展開し、専門的な知識・技術を有する社会人講師として招へいた。 県立高校23校

大学	実施校数	延べ教員数
鳥取大学	5校	8人
鳥取環境大学	5校	12人
鳥取短期大学 ※年度途中に 連携協定を締結	1校	1人



事業名	当初予算額 A	補正予算額 B	支出済額 C	翌年度 繰越額 D	差引残額 E=A+B-C-D	執行率 F=C/A	事業の計画と実績・成果・不 用額・執行率
未来につながる 高校生活支援 事業	10,222,000	0 (11,000)	9,496,930	0	725,070	93%	高校生等の学校生活を支援するための取組を実施した。  (英語4技能ステップアップ事業から流用)
	区分		実績				
	とっとり夢プロジェクト事業	創造力とチャレンジ精神をもった高校生の主体的な企画・活動を支援した。 ・「研究サミットへの参加と小学校での化学実験体験出前講座」(米子工業高等専門学校) ・「日本初!高校生Vtuberプロジェクト」(鳥取城北高校) ・「鳥取西高敷地内の再生可能エネルギーを利用したエアコンの開発」(鳥取西高校) ・「カレー王国鳥取に『乗っカレー』プロジェクト ~カレーで地域と米子南を盛り上げる~」(米子南高校)					
	いじめ問題支援事業	全県立高校で心理検査hyper-QUを実施し、生徒及び生徒の所属する集団の状況を把握して、適切な支援策を講じる資料とした 県立高校24校の1・2年生対象に各校2回実施(定時制は1~3年生) ・教員を対象に、心理検査hyper-QUの結果の分析や活用に関する研修を実施。参加教員数 35人					
高校生マナーアップ推進事業	高校生の社会の一員としての自覚を高め、規範意識の向上を図るため、挨拶運動等を実施した						
	区分	実施期間	参加人数	活動内容			
	第1回	H31.4.16~4.19	約4,200人	①JR主要駅前での挨拶運動・マナーアップよびかけ ②各高校校門付近での挨拶運動、服装・マナー指導 ③列車に乗車してのマナー指導 ④各校独自のマナーアップ運動			
第2回	R1.9.10~9.13	約4,300人					
ICT(タブレット端末)活用推進事業	316,000	0	291,774	0	24,226	92%	青谷高校では、一台の端末を数人で共用できるシステムを導入し、個人の学習履歴や成果物を蓄積させることで、個々の理解度に応じた指導を行った。 また、鳥取湖陵高校では、教育総合支援型サービスを導入し、タブレット型端末による家庭学習を進めるとともに、保護者への情報伝達に利用したり、生徒・保護者と学習履歴を共有するなどした。 多くの学校で、協調学習やジグソー法による授業時における、資料提示、発表用ツールとして活用されており、アクティブ・ラーニング型授業の推進とタブレット型端末の活用推進が相乗的に進行している。
目 計	238,465,000	△ 1,642,000	216,687,348	0	20,135,652		

事業名	当初予算額 A	補正予算額 B	支出済額 C	翌年度 繰越額 D	差引残額 E=A+B-C-D	執行率 F=C/A	事業の計画と実績・成果・不 用額・執行率
(教育財産管理費) 倉吉農業高等 学校演習林活 用事業	858,000	0 (△356,000)	432,336	0	425,664	50%	<p>演習林の教育的活用では5月から11月までの演習林実習において育林管理や林内の希少植物の保護等を環境科の生徒で行った。演習林散策等の林業体験交流を実施。 ※日本伐木チャンピオンシップin鳥取大会に出場 ・森林組合連合会での技術講習及び演習林内での実地練習を行った。</p> <p>【執行率が50%以下となった理由】 購入予定であった備品が製造中止により購入不可となったため。</p> <p>(グローバルリーダーズキャンパスに流用)</p>
目計	858,000	0	432,336	0	425,664		
合計	1,458,075,000	12,863,000	1,421,881,221	0	49,056,779		

6 決算資料  
別途提出

7 事業別実施状況調べ  
別途提出

8 予備費の充用調べ  
別途提出

9 繰越関係調べ  
別途提出

10 収入証紙取扱調べ  
有・**無**

11 現金の取扱状況  
(1)現金取扱状況  
該当なし

(2)つり銭の状況

(令和3年3月31日現在)

つり銭の有無	無	つり銭の額(円)	0
--------	---	----------	---

12 財産に関する調べ

(1)公有財産

ア 土地  
該当なし

イ 建物  
該当なし

ウ 山林  
該当なし

エ 不動産売却  
該当なし

オ 財産の交換  
該当なし

カ 動産(船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機)  
該当なし

キ 物権  
該当なし

ク 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案権等)  
該当なし

ケ 有価証券  
該当なし

コ 出資による権利  
該当なし



(2) 金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

有 ・ 無

イ タクシーチケットの受払状況

(令和3年3月31日現在)

前年度末未使用枚数	本年度中		本年度末	備考
	購入枚数	使用枚数及び金額		
28 枚	0 枚	0 枚 0円	28 枚	

(3) 基金

該当なし

(4) 債権

(令和3年3月31日現在)

債権の名称	前年度末		本年度中				本年度末		備考
			増		減				
	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	
外国語指導助手の 宿舍借りに係る 敷金	円		円		円		円		鳥取東高校 ※小中学校課 へ移管(以下 同じ)
	141,000	1			141,000	1	0	0	
	294,000	2			294,000	2	0	0	鳥取西高校
	147,000	1			147,000	1	0	0	鳥取商業高校
	110,000	1			110,000	1	0	0	鳥取工業高校
	147,000	1			147,000	1	0	0	鳥取湖陵高校
	147,000	1			147,000	1	0	0	青谷高校
	156,000	1			156,000	1	0	0	岩美高校
	147,000	1			147,000	1	0	0	八頭高校
	160,000	2			160,000	2	0	0	米子東高校
	53,000	1			53,000	1	0	0	米子西高校
	263,000	2			263,000	2	0	0	米子高校
	61,000	1			61,000	1	0	0	米子工業高校
	154,000	2			154,000	2	0	0	境高校
	118,000	1			118,000	1	0	0	日野高校
合計	2,098,000	18	0	0	2,098,000	18	0	0	

13 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物

ア 土地  
該当なし

イ 建物  
該当なし

(2) 物品(1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄付受納時の評価額が100万円以上のもの)

該当なし

14 借受不動産明細調べ

該当なし

15 職員駐車場の管理状況調べ

(1) 管理状況

該当なし

(2) 減免の考え方

該当なし

(3) 使用料の見直し

該当なし

16 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

17 備品の処分状況調べ

該当なし

18 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 亡失、損傷の報告状況

有  無

(2) 物品確認の実施状況

有 ・ 無

19 貸付金等状況調べ

(1) 総括表

該当なし

(2) 償還状況

該当なし

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する要望等

該当なし

(2) 監査委員事務局に対する意見・要望等

該当なし